

発達障害への適切な対応を考える

母親（医師）からの報告と提言

幼児期に大きな問題を抱えていた子どもは、どのようにして言葉や認識力、読み書きなどの学力を身につけていったのでしょうか。両親は家庭でどのような役割を果たし、学校とはどのように連携したのでしょうか。子育ての悩み・不安を少しずつ乗り越えてきた体験を、現役の医師でもある母親が語ります。

（本セミナーは首都圏で開催中の『事例から知る、「発達の遅れ」が気になる子どもの教え方』の16回目。大阪では初めての開催となります）

日時 ● 2019年6月22日（土）18:30～20:30
（受付開始 18:00～、開場 18:15～）

会場 ● ドーンセンター（大阪府立男女共同参画・青少年センター）
7階ホール 大阪市中央区大手前1-3-49 電話 06-6910-8500
京阪・大阪メトロ谷町線「天満橋」駅から徒歩約7分

定員 ● 500名（対象：保護者、学校関係者、医療関係者、市民など）
参加費（資料代等） ● 1,000円（大人） 500円（学生） 子ども無料
※当日、受付でお支払いください

申し込み ● 事前申し込み制（定員になり次第、締め切らせていただきます）

(1) 当 NPO 法人ホームページの「申し込み専用フォーム」からお申し込みください。

教育を軸に

検索

(2) お電話（080-8726-1000）でも受け付けております。
（月～土：13:00～20:00）

(3) FAX でのお申し込みは「大阪セミナー参加希望」と明記の上、代表者のお名前・ご住所・ご連絡先、参加人数を添えて FAX（048-837-6926）願います。



セミナー風景 / 2018年12月（埼玉県川口市）

お話（体験発表）

高校1年生の母親（医師）

4歳で「広汎性発達障害」と診断され、言葉の遅れや執着行動などがあり、困っていた両親。年中の11月から子どもへの接し方を変え、現在に至る。息子さんは就学猶予、小学校（普通学級）、中学校（特別支援学級）を経て、今春、単位制の高校へ進学。

進行と質疑応答

河野俊一さん エルベテーク代表
医療法人エルベ理事

1996年より幼児から高校生までを対象とした学習教室を主宰（埼玉・ロサンゼルス）。著書に『子どもの困った！行動がみるみる直るゴールデンルール』『誤解だらけの「発達障害」』（いずれも新潮社）など。

感想と問題提起

吉田景一さん 甲子園短期大学幼児保育学科准教授
前大阪府立港高等学校校長

高校の保健体育科教諭として21年間勤務。教科教育、研修、生徒指導、学校保健、健康・安全教育などに携わる。府立高校の校長を経て現職。

主催

NPO法人 Education in Ourselves 教育を軸に子どもの成長を考えるフォーラム

埼玉県さいたま市南区辻5-6-12-408 〒336-0026 TEL&FAX 048-837-6926 携帯 080-8726-1000

E-mail info@education-in-ourselves.org https://www.education-in-ourselves.org

共催 / 株式会社 増進堂・受験研究社

後援 / 文部科学省、厚生労働省、大阪府、大阪市、大阪市教育委員会、埼玉県教育委員会